



スーパー耐久シリーズ 2021
Powered by Hankook 第2戦
SUGO SUPER TAIKYU 3Hours Race
Race Report

開幕戦から約1ヶ月とは思えないほどあっという間にやってきた第2戦。

元よりドライバーに人気の高いサーキットだが一部改修されスタッフにとっても過ごしやすくなった。ウィークを通して不安定なコンディションとなりスリリングな決断を強いられる場面もあったがS耐らしい盛り上がりを見せた。

また今回は2グループに分けた決勝も見所であった。各車課題はあるが次は24時間に向けて準備したいと思います。



#38 muta Racing GR SUPRA

ST1

予選結果 1位

決勝結果 1位

A:Dr 堤 優威

B:Dr 阪口 良平

C:Dr 堀田 誠



前戦から見直した箇所は多く木曜日のプラクティスから順々に各所確認を進めていく。タイム、データ、コメントと一貫性が出てくる感じはチームにとって安心感があり今週は正にそのよい例であった。金曜日の最終枠で補機類による不調があり、全メニューを消化できなかったが予選では難しいコンディションの中なんとか1位を奪取する。

決勝はクラスは違えど実力が拮抗する車両が多い中、堤選手、阪口選手両名とも速く、しかしながら安定した走りを披露する。後半は一時中断するも気を緩める事なく最後までプッシュを続け95Lapでベストタイムを更新する強さを見せ、優勝となった。

39 エアバスター Winmax RC350 TWS

ST3

予選結果 2位

決勝結果 2位

A:Dr 富林 勇佑

B:Dr 大島 和也

C:Dr 石井 宏尚



前回より大きな変更は無く微調整と確認を主にプラクティスを走行する。周知の通りST3は決勝はもちろん予選も接戦が繰り広げられ、少しのミスやロスが命取りになる。それゆえナーバスになりがちだが、焦る事なくメニューを消化してゆく。

予選では難しいコンディションの中富林選手がアタックしセクタータイムをチーム全員が見守りトップタイムを期待するが、運悪く最終セクターで非アタック車両にひっかり大きくタイムを落とす悔しい結果となった。その雪辱を晴らすべく大島選手はB-QFにおいてクラストップタイムを叩き出す。ロス分を埋めるには至らず2位となった。

決勝はコース上はもちろんピット戦でも抜きつ抜かれつのバトルが続く。そんな中、1歩リードした52号車に先行を許してしまう。最終ステイントではギャップを詰めるシーンもあったが届かず2位でチェッカーとなった。

#41 エアバスター 55Garage RC350 TWS

ST3

予選結果 3位

決勝結果 6位

A:Dr 庄司 雄磨

B:Dr 伊藤 善博

C:Dr 齋飼 龍太



こちら木曜から順調に走行を重ね、途中で大きめのセッティング変更を行う。それが良い方向に機能し、チームの士気も高まる。

予選ではチームメイトの#39富林選手に続き庄司選手も好タイムの期待がかかったが#39と同じくしてひっかりロスを余儀なくされる。

伊藤選手も懸命にアタックし、合算で3位からのスタートとなった。

決勝ではやや上位陣に飲まれるかけるもすぐ後方で追従する。

中盤ではトップグループに追いつきハイペースでラップを重ねる。

SCのタイミングでライバルは次々とPITに入るが集団と混乱のリスク回避の為にステイという作戦をチョイス。セカンドグループから抜け出せそうなタイミングでホワイトラインカットというペナルティを受け戦線から離脱した。

諦めずに最後まで走りトップグループと遜色ないペースではあったが6位となった。しかし戦闘力は再確認できたので次回に期待がかかる。

